伊那弥生ケ丘高等学校
校長通信 ～知徳兼ねつつ たくましく～
第16号
令和8年 10 月 21 日

野球部 全勝優勝・・・秋季上伊那交流戦での活躍

10 月 10 日（土）から２週にわたり、上伊那地区の野球部が交流戦を行いました。伊那ニッパツスタジアムをはじめ各校グラウンドを会場に、８チームが総当たりで順位を競い、熱戦を繰り広げました。

経験値 昨秋以降、現２年生を中心に公式戦等を数多く経験し、夏の選手権大会は３回戦まで進出しました。新チームは秋季南信予選２位で県大会に出場し、県大会ではベスト８をかけた試合で惜しくも敗退しましたが、来夏に向けて良い経験になりました。秋季２次予選及び県大会では、５試合中４試合が１点差のスコアとなり、どのような相手でも粘り強く戦うことができました。

本校の結果

高 遠	200 00 2
弥 生	443 2X 13 (5C)
弥 生	000 002 001 3
伊那北	200 000 000 2
弥 生	002 010 032 8
辰 野	000 020 400 6
上 農	100 000 000 1
弥 生	200 030 01X 6
弥 生	141 06 12
箕進・茅野	000 00 0 (5C)
駒 工	000 000 100 1
弥 生	030 022 00X 7
赤 穂	001 000 000 1
弥 生	003 001 20X 6

内外の刺激 右表のように、全７試合の平均得点 7.9 点、平均失点 1.9 点と全体に安定した試合運びでした。僅差や劣勢でも最終盤に勝敗を決定づけるゲームもありました。また、主力だったメンバーを故障のために欠いたゲームが多かったため、他の選手の出場機会が増え、チーム力を高めることにもつながったようです。また、選手は同じ上伊那地域で顔見知りの身近な学校同士ということが、本交流戦における競争意識を高めたと思います。お互いの刺激は大切です。

選手の力強い言葉 主将は「８月に私立高校との練習試合で大敗した後、チーム内での気付きをお互いにもっと言い合うようにした。チームスローガンが『頂奪』だったが、南信予選・県大会では実現できなかったので、交流戦では優勝を狙っていた。来春の南信予選優勝、夏は甲子園出場を目標に、打力・得点力などまだまだ足りないところがあるので、頂点を奪うために目の前のやるべきことに集中して取り組んでいきたい。」と語ってくれました。


試合後のベンチ前の整列


円陣で主将の指示を聞く


高校から野球を始めた選手


好投した主戦投手


フルスイングする主軸打者